

平成 20 年度情報通信月間 情報通信月間推進協議会会長表彰

志田林三郎賞

(1) 個人 : 1 件

(敬称略)

氏 名	功 績 の 概 要
<small>なかざわ まきたか</small> 中沢 正隆 (55 歳) 東北大学 電気通信研究所 教授	エルビウム添加光ファイバ増幅器 (E D F A) の先駆的な研究開発と、その革新的な技術がもたらした超高速・大容量光ファイバ通信の発展に尽力するなど、情報通信技術の高度化に多大な貢献をした。

情報通信功績賞

(1) 個人 : 4 件

(敬称略 : 五十音順)

氏 名	功 績 の 概 要
<small>たなか ひろし</small> 田中 博 (58 歳) 東京医科歯科大学 情報医科学センター長・教授・ 教育部長	患者の心拍や呼吸をワイヤレスで伝送し呼吸停止時にはアラーム音で警告するシステムや、医療従事者等の病室への入退室情報や医療用カート上の薬剤や医療材料の情報を電子タグで把握することで、医療過誤の防止等に資するシステムの開発といったユビキタス健康医療技術の普及に貢献するなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。
<small>ふくい しやうぞう</small> 福井 省三 (61 歳) 株式会社東京放送 執行役員	市販のテレビ等にハイビジョン映像を使用した I P T V 機能を実装可能にすることを目的とし、通信事業者、家電メーカー、放送事業者から構成された I P T V フォーラムの設立のために各業界間の調整を行うなど中心的な役割を果たしたのみならず、I P T V サービスの実現及び普及のために技術的な規格及び仕様の策定に尽力するなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。
<small>まつやま たかし</small> 松山 隆司 (56 歳) 京都大学大学院 情報学研究科知能情報学専攻 教授	「インターネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会」(総務省)において、知識処理についての幅広い見識を活かし、インターネット上の違法・有害情報への対応のため、自然言語処理、知識処理技術等の I C T の積極的な活用による社会的な問題解決に精力的に取り組むなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。
<small>もりかわ ひろゆき</small> 森川 博之 (43 歳) 東京大学 先端科学技術研究センター 教授	産業界と連携してセンサーネットワーク技術の高度化に取り組み、防災、教育等の幅広い分野への応用や異なるシステムの相互接続を実現する共通プロトコルの開発等に尽力するとともに、ユビキタスネットワーク技術の研究開発成果の一般公開を定期的に行い、普及啓発に努めるなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。

(2) 団体 : 1 件

(敬称略 : 五十音順)

団 体 名	功 績 の 概 要
モバイル I T フォーラム (会長 <small>はとり みつとし</small> 羽鳥 光俊)	世界最先端のモバイル I C T の実現に向け、公開鍵基盤 (P K I) を用いた認証技術の共通化に尽力するなどモバイルコマースの普及及び発展に貢献した。また、第 4 世代移動通信システムの実現に向けて研究開発を促進するとともに、諸外国との交流を通じて国際標準化活動に寄与するなど、情報通信技術の発展に多大な貢献をした。

平成20年度「情報通信月間」総務大臣表彰

1 個人：6件

(敬称略：五十音順)

氏名	功績の概要
うつみ よしあ 内海 善雄(65歳) 前国際電気通信連合事務 総局長	日本人初の国際電気通信連合事務総局長として、情報通信分野における国際標準化、国際周波数監理などを推進した。(平成10年から2期8年間) また、平成15年に開催された初の国連世界情報社会サミット、平成17年開催の同サミットを成功に導き世界の経済社会の発展に向け、情報通信分野の方向性を示すなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。
かわしま りゅうた 川島 隆太(49歳) 東北大学 加齢医学研究所 教授	ICTを活用して、人の脳画像の自動診断や脳活動の仕組みの解明等の研究及びその教育や福祉等への応用の分野で多大な研究成果を挙げるなど情報通信の発展に多大な貢献をした。また、その成果を、産学連携により「脳を鍛える」をコンセプトにして教育・出版・エンタテインメント分野に展開し、新産業の創出を実現するなど、大きな社会貢献を果たしている。
こくりょう じろう 國領 二郎(48歳) 慶應義塾大学 総合政策学部 教授	情報通信審議会情報通信政策部会ICTによる生産性向上に関する検討委員会における生産性向上施策の検討や、我が国のICT産業の国際競争力強化を目的とするユビキタス特区事業の推進に中心的な役割を果たすなど、我が国の情報通信の発展に多大な貢献をした。
さかい よしのり 酒井 善則(61歳) 東京工業大学大学院 理工学系研究科 教授	情報通信審議会委員、同審議会ITU-T部会長、電気通信事業部会長代理として長年にわたり我が国の情報通信の発展に多大な貢献をした。また、「研究開発・標準化戦略委員会」(同審議会)主査として、中長期にわたる我が国のICT分野における研究開発・標準化戦略の提言に尽力した。
しょうやま えつひこ 庄山 悦彦(72歳) 株式会社日立製作所 取締役会長	情報通信審議会会長として、幅広い見識を活かし、情報通信審議会での調査審議を円滑に運営し、数々の重要な提言を行うなど、我が国の情報通信の発展に多大な貢献をした。
すどう おさむ 須藤 修(52歳) 東京大学大学院 情報学環 教授	「電子自治体の推進に関する懇談会」(総務省)座長・同オンライン利用促進ワーキンググループ部会長を務めるなど、地方公共団体における電子自治体の推進に多大な貢献をするとともに、IT新改革戦略評価専門調査会「電子政府評価委員会」座長として各府省の業務・システム最適化、申請・届出等のオンライン利用促進等、政府のオンライン化に係る総合的な施策の推進に尽力した。

2 団体：4件

団体名	功績の概要
ネットワークロボット フォーラム (会長 <small>とくだ ひでゆき</small> 徳田 英幸)	少子高齢化社会において生活支援等の多様なサービスが期待されるネットワークロボットについて、世界に先駆けてICT技術とロボット技術の融合を図る取り組みを開始し、セミナーや研究会を通じた技術の普及啓発、国際標準化に関する提案や海外研究機関との協力関係の構築等の活動を精力的に行うなど、我が国の国際競争力の確保、情報通信の発展に多大な貢献をした。
<small>やまえむら</small> 山江村 (村長 <small>うちやま けいじ</small> 内山 慶治)	アマチュアである地域住民を情報の送り手たる「住民ディレクター」へと育成し、独自の視点から捉えた新たなコンテンツを生み出すなど、地方発の新たな情報発信の形態を創造した。現在「山江村住民4,000人全員の出演」が目標である。この山江村で始まった取組は地域活性化の取組として、東京都杉並区、島根県隠岐郡海士町など全国20程度の地域に広まるなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。
特定非営利活動法人 ASP・SaaS インダストリ・コンソーシアム (会長 <small>かわい てるよし</small> 河合 輝欣)	中小企業の生産性向上、地方自治体の行政事務の効率化に寄与するツールの一つである「ASP(Application Service Provider)・SaaS(Software as a Service)」の利活用に取り組み、安全信頼性に係る情報開示指針の策定に重要な役割を果たす等、ASP・SaaSの普及促進を推進するなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。
Japan Email Anti-Abuse Group (JEAG) (事務局長 <small>さくらば しゅうじ</small> 櫻庭 秀次)	迷惑メール撲滅を目的として国内の主なインターネットサービスプロバイダーや携帯電話事業者等で構成する本団体は、迷惑メール対策における参加メンバー間の統一した方向性を模索し実施するとともに、有効な迷惑メール対策技術について提言書を作成し、その導入を促進することにより日本発の迷惑メールの大幅な減少に寄与するなど、情報通信の発展に多大な貢献をした。

平成20年度「u - Japan大賞」 総務大臣表彰

1 大賞(1件)

サービス・システム名	功績の概要
「インターネットを利用した地域医療連携システム」 (株式会社エスイーシー)	地域の医療機関が患者ごとの診療情報を相互参照することにより、複数の施設間の医療連携を可能とするシステムを、インターネットを利用し簡易に実現。患者の満足度向上、重複検査の排除による医療費削減に期待。

2 地域活性化部門賞(2件)

(五十音順)

サービス・システム名	功績の概要
「地域の路線バス利用促進のためのバス経路探索システム「バスネット」」 (日本トリップ有限責任事業組合、国立大学法人鳥取大学工学部計算機工学A研究室)	鳥取県内の全路線バス時刻検索システムについて、停留所ではなく現在地・到着地を入力し最寄りの停留所や鉄道への乗換経路を含めて検索・表示するなど、実際の利用を考慮した形で実現。バス利用者増加による地域活性化・行政負担軽減に期待。
「全国少年少女草サッカー大会運営支援システム」 (特定非営利活動法人 ふじのくに情報ネットワーク機構)	毎年夏に静岡市で開催される全国最大規模のサッカー大会の運営全般を支援するシステムを、静岡県立大学の学生が地元NPOの支援を受けて開発。民産官学の連携による地域情報化・地域人材育成の成功例として評価。

3 環境部門賞(1件)

(五十音順)

サービス・システム名	功績の概要
「農業情報管理システム(生育予測・食味解析システム)」 (日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社)	衛星画像を利用して小麦の生育状況を解析、その結果を圃場ごとにデータ管理し、刈取り時期・刈取り圃場を最適化することにより、乾燥エネルギーの削減や刈取り作業効率の向上を図り、大幅なCO2削減を実現。

u - J a p a n大賞 審査委員賞

1 審査委員特別賞

サービス・システム名	功 績 の 概 要
「ユビキタスセンサーネットワーク機器・フィールドサーバ」 (株式会社イーラボ・エクスペリエンス)	農業現場向けセンサーネットワークシステム。温度・湿度・日照量や、現場のリアルタイム映像などのデータを、無線LAN等を経由してネットワーク上で情報共有し、農業の「見える化」を促進。また、一部情報を消費者にも公開し、地域農産品のブランド化を支援。